

BY BLUE

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌 バイブルー

2007
VOL

21

- 水の逸話を訪ねて…P1
「お満灯笼」滋賀県守山市
- 食材を活かす 水の妙…P2
「米」
- 水とともに…P5
「大阪市の渡船」
- おもしろ科学実験 水のふしぎ…P10
「浮沈子を作ろう!」

つくってみよう!

うらのページに、
この折り紙の
折り方がのってるよ!

県営水道業務における 資源の循環・有効利用

水辺からのメッセージ

奈良県水道局業務課

奈良県水道局では、宇陀川（淀川水系）、紀の川の両河川を水源として、24市町村に対し年間約8千万トンの地域の必要の約半分を供給しています。

当局ではまた、業務にともなう環境負荷を低減するため、業務全体の中で発生する「ロス（廃棄物や未利用資源）」に着目し、循環・有効利用にも積極的に取り組んでいます。

具体的な取り組み事例として、浄水汚泥の有効利用（育苗土等）、管路の残存水圧の有効利用（小水力発電、郡山ポンプ場で平成19年度より稼働）などがあります。ここでは浄水場施設の上部空間や造成法面を有効利用した太陽光発電（平成17年度より稼働）について紹介します。



太陽光発電導入後、見学者が増加するなど、環境に対する啓発にも効果を発揮している。

太陽光発電施設(奈良県水道局御所浄水場)の概要

◎最大出力：790kW(西日本最大級) ◎パネル枚数：4,740枚(多結晶タイプ) ◎パネル総面積：6,272㎡(サッカーグラウンドとほぼ同じ)
◎平成18年度発電実績：802,175kWh(浄水場使用電力の約8%、一般家庭なら216世帯分)
<環境負荷削減効果>206t-CO₂(石油に換算すると194kl、森林吸収量に換算すると82ha)

※詳しくは奈良県水道局HPをご覧ください(「奈良県水道局 太陽光発電」で検索) <http://www1.kcn.ne.jp/~narapwwb/304taiyoukou.htm>

つくってみよう! 今回の生き物▶水鳥

- 1 折り紙を三角に折り、つけた折り目に合わせてまん中に折り合わせます
- 2 ①を裏返します
- 3 図のような位置まで折り返します
- 4 後ろ向きに半分に折ります
- 5 折った角をつまんで
- 6 引き上げます
- 7 角の内側を開き、かぶせるように折ります
- 8 お尻の部分を中に折り込みます
- 9 折り込んだ先を引き出してしっぽを作ります
- 10 完成

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構賛助会員(50音順)

計17社(平成19年8月1日現在)

(株)アクアテルス琵琶湖事業部、いであ(株)、(株)オオバ大阪支店、(株)環境総合テクノス、近畿技術コンサルタンツ(株)、(株)建設環境研究所、(株)建設技術研究所大阪本社、国際航業(株)関西支社、(株)修成建設コンサルタント、(株)新洲、帝人エコ・サイエンス(株)、(株)東京建設コンサルタント関西支店、(株)西日本技術コンサルタント、(株)日建設シビル、(株)日水コン、(株)ニュージェット、パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社



財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号大阪マーチャンドライズ・マート(OMM)ビル13階
TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036
ホームページアドレス<http://www.byq.or.jp/>

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もってうらのおいのある地域社会の形成と関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

「BY BLUE」とは、琵琶湖(BIWAKO)・淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく、という願いから名付けました。





守山市から白髭神社方向を望む

お満灯籠

琵琶湖の西側に私の好きな人がおられます。百日通い続ければお嫁さんになれるのです。

(守山市ホームページ「守山の昔ばなし」より)

滋賀県の守山市に伝わる民話「お満灯籠」は好きな人を一途に思い、タライ舟で琵琶湖を百日渡り続けた村娘・お満の物語。

九十九日間、雨の日も雪の日も通い続けたお満。しかし、その気持ちを重荷に感じた男が百日目の夜にお満が目印にしていた白髭神社の常夜灯の灯を消してしまいます。目印を失ったお満は琵琶湖をさまよった挙句、突風に煽られ遭難してしまおうという悲しい恋物語。

滋賀県に春の訪れを告げる「比良八講荒れじまい」「比良八荒」と呼ばれる強風は、このお満の恨みによるものとも言われています。最近では比良の観光名物にしようと、地元の団体がタライ舟を復元し、近江舞子の内湖に浮かべる計画を進行中。琵琶湖を渡ることは無理でも、浮かんだタライに身を置き、お満の切ない恋心に思いを馳せてみては。

食材を活かす 水の妙

米

母なる琵琶湖、山々がもたらす良質な米

米づくりに欠かせない肥沃な土地と良質の水

縄文時代後期に稲作が伝わって以来、伝統的な主食として日本人の食卓とは切り離せない「米」。米づくりにには肥沃な土地と水が欠かせません。特に代掻きから始まる米づくりの過程では大量かつ良質の水が必要になります。近畿1400万人の暮らしを支える琵琶湖を擁し、鈴鹿山脈と伊吹・比良・比叡の山々に囲まれる滋賀県は、気候、土壌、そして良質な水に恵まれ、おいしいお米を生産できる産地として全国に名を知られてきました。

農業削減、濁水対策—環境こだわり米は全国へ

「米どころ」滋賀県では平成15年に「環境こだわり農業推進条例」およびその基本計画を制定しました。これは農業と化学肥料を



「環境こだわり農産物」の田んぼに必ず立てられる看板

通常の5割以下にし、濁水の流出防止など琵琶湖をはじめとする環境にやさしい技術を用いて作られた米を、「環境こだわり米」として滋賀県が認証するもの。

また、魚の産卵や成育の場となっていたかつての田んぼと同じように、魚が泳ぐ水田で栽培する「魚のゆりかご水田米」などの取り組みも始まっています。

このように環境にこだわって作られる近江の米はブランド米として注目を集め、滋賀県内だけでなく、北は東北、南は



九州と全国各地に出荷されています。

中でも野洲市で収穫される「日本晴」は、食糧庁や日本穀物検定協会が行う食味試験の基準米として採用されるなど、近江米が全国各地の米にとって果たす役割は大きいと言えるでしょう。

注：環境こだわり農産物は米（水稲）だけでなく、野菜や果樹など「県内で栽培される農産物」を対象としています。



みんなで Biyoセンター へ出かけよう!

琵琶湖の湖岸道路(通称:さざなみ街道)を大津方面へ車を進めると、琵琶湖博物館のある烏丸半島を過ぎて間もなく、湖岸緑地公園の中にレンガ色をした三角屋根の建物が見えてきます。ひょっとして「ログハウス風のキャンプ場では?」と思っている方がおられるかも知れませんが、この建物が今回ご紹介します『琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター』で、愛称を「Biyoセンター」と呼んでいます。ここではBiyoセンターの成り立ちや役割、活動状況の一端をご紹介します。少しでも興味を持たれた方、あるいは以前から水環境について関心をお持ちの方は、ぜひ皆さんと一緒にセンター見学に出かけてみて下さい。



◆Biyoセンターがなぜできたのですか? また、どういう役割があるのですか?

琵琶湖・淀川水系に住んでいる私たちは、日本一大きな湖である琵琶湖をはじめ美しい自然と豊かな水に恵まれており、近畿圏の経済・文化の発展はこうした水の恵みに支えられています。しかし、近年の急速な工業化や都市化に加えて、私たちのライフスタイルの変化により琵琶湖では富栄養化が進行し、淡水赤潮やアオコが発生するなど飲み水や自然環境などにいろいろな問題が生じてきました。

こうした問題を解決するために、法律や条例による工場排水等の規制や下水道の整備が進められた結果、琵琶湖や淀川の水質は徐々に改善されつつあります。今後さらに水環境改善を進



めるためには、農業排水や山林・市街地等からの雨水排水における汚濁負荷の削減対策が重要となってきています。

「Biyoセンター」は今からちょうど10年前の平成9年に、国土交通省、滋賀県、(独)水資源機構、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構の4者が共同で設置した実験施設で、河川や湖沼の水を直接浄化する技術開発や生き物が棲みやすい環境づくりのための実験を行っています。

◆Biyoセンターではどのような実験をやっているのですか?

私たちの周りには河川や水路、湖沼など様々な環境の水域が存在しており、水環境を改善するためには、それぞれの水域に応じた対策が必要となります。Biyoセンターには、大きさや形状の異なる10種類の実験施設があり、各水域に応じた様々な研究・開発を行っています。

これまでに、土壌や植生が持つ自然の浄化能力を生かした水質浄化実験の他に底質改善や生態系保全を目的とした実験や調

査は、50以上にのぼります。ここでは、それらの中から代表的な実験や今年度新たに開始した実験をいくつかご紹介します。

<植生浄化実験>

水深5cm程度の浅い水路で水耕栽培したクレソンやミント等による水質浄化性能を検証し、効率的な維持管理方法や浄化副産物の有効利用(堆肥化)について検討しました。



<土壌浄化実験>

土壌浄化実験施設および浸透ろ過装置を使って、赤玉土などの土壌が持つ水質浄化能力やリンの吸着寿命を把握し、実用化にあたっての施設の設計や運用面での検討を行いました。



赤玉土

<外来魚駆除基礎実験>

外来魚であるブラックバスやブルーギルの駆除技術を確立するために、堰による外来魚の遡上防止効果や光・音による外来魚の集魚効果の検証を行いました。



<水草による水質浄化実験>

水草の繁茂が水質を改善する機構を解明するために、水草の有無による水質の変化、水草・付着藻類の成長量、動物プランクトン等の現存量の違いなどを調査しています。(滋賀県立大学浜端准教授との共同実験)



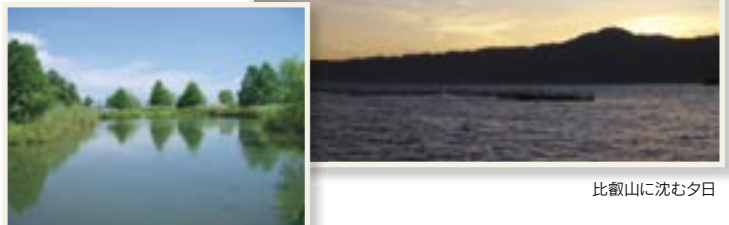
<珪藻増殖実験>

内湖等の閉鎖性水域での水質浄化を目的に、窒素分の除去とケイ酸溶出により植物プランクトン中の種の割合の変化や出現する珪藻種への影響を調査しています。(㈱ニュージェックとの共同実験)



◆Biyoセンターは誰でも見学できるのですか?

Biyoセンターでの水環境改善に向けた取り組みを、一般市民の皆さんにも広くお知らせし、水環境について関心をもっていただくために、施設見学や環境学習などの場として実験施設を開放しています。例年海外からの視察も含め年間約50団体、人数にして約1,000の方が来訪されています。電話等で事前にお申し込みいただければ、職員がスライドによる説明や実験施設の案内をいたします。なお、Biyoセンターは湖岸緑地公園の中に設けられていますので、申し込みがなくても平日や時間に 관계なく自由に入出りが可能です。水と緑に囲まれた琵琶湖岸を散策する気分で、気軽にお立ち寄りください。



比叡山に沈む夕日

琵琶湖池

また、Biyoセンターでは毎年夏休みの期間中に、施設内のピオトープをフィールドとして魚や昆虫、植物などの自然観察会を開催しています。小さな子ども達にもこうした機会を通して、水や水辺の生き物に触れていただきたいと思います。

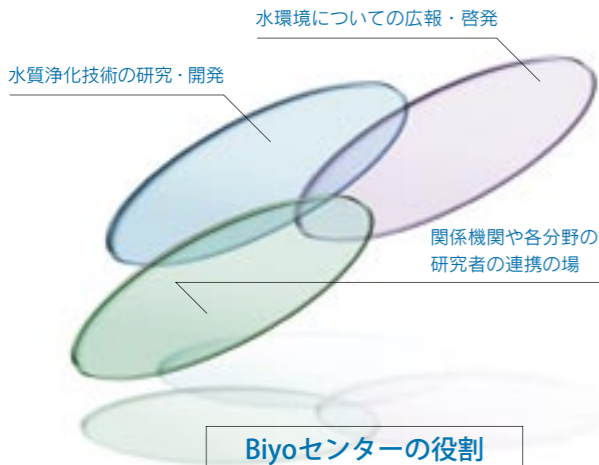


魚の観察会



わたしたちの生活はたいへん便利になり、蛇口を捻ればいつでもおいしい飲み水が出て、汚れた水は私たちの目に触れることなく下水道管に流れて行きます。一度、わたしたちの命を育む水がどこから来て、どこへ行くのかいっしょに考えてみませんか。

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター (Biyoセンター) : 滋賀県草津市志那町地先 tel.077-568-2032 fax.077-568-2052

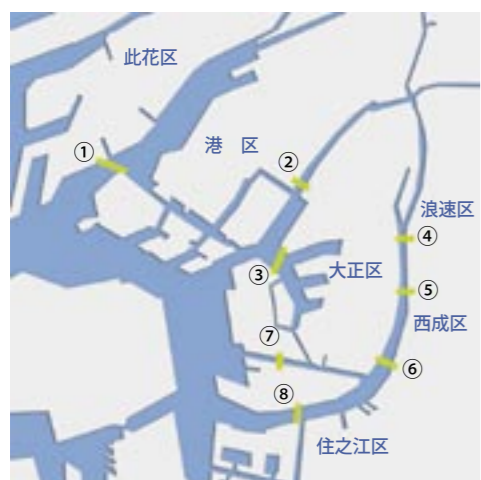


水都・大阪の経済を支えた 江戸時代から残る市民の“足”

水路の標識「湊標」が市章にもなっている大阪市。
古くから「水の都」と呼ばれてきたこのまちでは
渡船が「道」として人々の暮らしを支えてきました。



現在運航中の渡船場マップ



- ① 天保山(てんぼうざん) 渡船場
- ② 甚兵衛(じんべえ) 渡船場
- ③ 千歳(ちとせ) 渡船場
- ④ 落合上(おちあいかみ) 渡船場
- ⑤ 落合下(おちあいしも) 渡船場
- ⑥ 千本松(せんぼんまつ) 渡船場
- ⑦ 船町(ふなまち) 渡船場
- ⑧ 木津川(きづがわ) 渡船場



も非常に高いところに架かっているために高齢者や自転車利用者は利用ができなかったり、電車では遠回りを強いられるのも2〜3分で可能な渡船

は地域で暮らす人々にとってまだまだ生活に欠かせない重要な役割を担っています。現在は1月1日と荒天時以外は年中運航しており、各渡船場で運航時間に若干の違いはあるものの、通勤・通学のラッシュ時には時刻表によらない随時運航を行うなど、利用者の便宜を考えた運航が行われています。また、最近では雑誌やテレビなどで渡船が取り上げられ、「一度乗ってみたい」と観光がてらに乗船するお客さんも増えているとか。

水運によって発展を遂げてきた「水の都」大阪。その象徴ともいえる渡船に乗ってみると往時の風景が感じられるかもしれませんね。

「旧道法」が施行されると、渡船は「道路の付属物」と位置づけられ一部の航路を除いて無料化が実現することとなりました。

古来、大阪には多数の河川があり「浪速の八百八橋」と呼ばれるほど多くの橋と河川を行き交う渡船が、商人のまち、大阪の経済を支えてきました。

明治期以前の渡船は民間によって有料で営まれていたため、その運営形態はさまざま。渡船場によって設備、営業時間、料金などが統一されていないうえ、船夫の都合で運航が中止されるなど、利用者にとっては必ずしも便利な乗り物とはいえませんでした。

そのため大阪府は明治24年に「渡船営業規則」を定め、営業時間や渡船料金を各渡船場で統一させ、営業を許可制としました。明治40年には市内の安治川、木津川、尻無川、淀川筋における全渡船場の市営化が完了。その後、大正9年に

市の直営化以降、最盛期の渡船場は臨海部を中心に31か所あり、年間利用者は歩行者が5,752万人、自転車等は約1,442万台にも上りましたが、橋梁の建設や道路をはじめとする都市施設が整備されると、渡船の利用は徐々に減少し、昭和53年には渡船場12か所、利用者数約250万人に。現在では渡船場は大阪市大正区を中心に8か所となり、年間利用者数も約193万人にまで減少しています(平成18年度)。

自転車でも乗船可能 利用者の便宜考えた あたたかさ

しかし、大型船が行き交うこの地域では、橋が架かつて

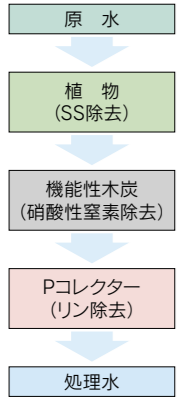
Biyoセンター

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(Biyoセンター)は、琵琶湖・淀川水系の水環境改善のために、自然の浄化能力を生かした水質改善など、新たな水処理技術を開発する研究開発の場として、また、水環境改善に対する取り組みについて、多くの人々に知ってもらうための場として設置された施設です。



実験フロー

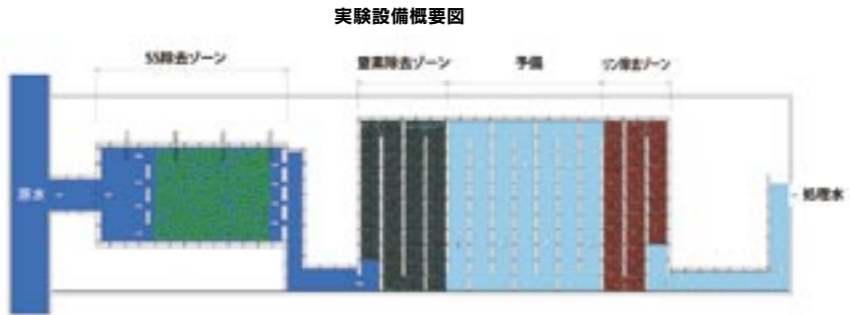


湖沼などの閉鎖性水域での富栄養化の原因となるリンや窒素は、生物にとって必要不可欠の元素ですが、増えすぎると藻類やプランクトンの異常発生を招いて、水質を悪化させます。こうした富栄養化の原因物質であるリンや窒素を除去する方法はいろいろ提案されていますが、管理が簡単で、安価・迅速・確実な方法は、確立されていないのが現状です。

今回は、Biyoセンターの浅池型実験設備を利用して同和工営(株)の開発したリン吸着材(Pコレクター)と日本植生(株)の開発した硝酸性窒素吸着材(機能性木炭)とを組み合わせて、水路式の簡単な除去設備で閉鎖性水域に流入する河川中のリンと硝酸性窒素を同時に除去することを主目的に行っている実験をご紹介します。

吸着材の特徴

■リン吸着材(Pコレクター)
Pコレクターは、リンを特異吸着することで知られるアロフェンを基材とし、球状に成形・焼成



■硝酸性窒素除去材(機能性木炭)
機能性木炭は、植物系廃棄物をカルシウム処理した後、炭化した硝酸性窒素吸着材です。一般の炭や活性炭では取り除くことのできなかつた硝酸性窒素を吸着除去できます。

リンを吸着したPコレクターや硝酸性窒素を吸着した機能性木炭は、それぞれ再生することが可能です。また、リンや硝酸性窒素を含んだ緩効性の植物活性炭材として使うことができます。

実験設備の概要

河川水に含まれる浮遊物質(SS)は、リンや硝酸性窒素を吸着・除去する際の阻害原因となります。そこで、浮遊物質を植物の茎や根圏を利用して除去する処理槽を設けています。また、水路には仕切り板を設けて除去材と被処理水が十分接触できるように工夫しています。

実験設備全景



左:Pコレクター 右:機能性木炭



実験リポート 同和工営株式会社 日本植生株式会社

「低濃度リン吸着材と機能性木炭(硝酸性窒素吸着材)を用いた水質浄化実験」



①暮らしの水に学ぶ世界の子どもたち ②自分たちで作ったヨシの家でキャンプする子どもたち ③魚の解剖を通して「命」を学ぶ子どもたち ④三世交代型調査「地域の水探検」 ⑤セミナー「船で水質調査をする」 ⑥「かばた」の水は美味しい!! ⑦地域の古老から水利用を聞く子どもたち



●BYスタンプラリー協賛グループ紹介 水と文化研究会

「あなたの近くの川」が活動のフィールド
地域住民みんなで考える身近な水環境
■今回は事務局長の小坂育子さんにお話をうかがいました。

琵琶湖に淡水赤潮が大発生した1977年以降、人々は琵琶湖や川の汚れなどに関心を示すようになりました。新聞などでもBODやCODの値で水の汚れが伝えられましたが、地域で暮らす人々はそういう数値よりも「ホタルやメダカが減ったなあ」「空き缶やゴミがたくさん落ちていく」といった、生き物の暮らしぶりや周囲の状況を実際に見ることのほうが水の汚れを実感できました。そこで「では、身近な足元の水環境をもう一回見直そう」ということから1989年に水と文化研究会が発足しました。

研究会の活動の柱は「ホタルダス」と「水環境カルテ調査」。特にホタルダスは会の発足以来10年間で、のべ3,400人、45,000日の調査日数を数える活動が盛んに行われています。

研究会の活動の柱は「ホタルダス」と「水環境カルテ調査」。特にホタルダスは会の発足以来10年間で、のべ3,400人、45,000日の調査日数を数える活動が盛んに行われています。

「水環境については学者だけではなく、地域住民みんなで考えていくことが大事」というのが会のスタンス。「活動に関わってくれた人、水環境について考えてくれる人は全員が「会員」だと思っている」から、正確な「会員数」は不明だそう。しかし、親子2代で観察に参加してくれる方もいたり、世代間で活動が引き継がれていると実感することもあった。

活動で心がけていることは「調査などの結果を、全てありのままの言葉で冊子などにまとめ、参加者にお返しすることです。冊子を読んだ方も、結果を見て次の活動の工夫を考えてくれる。このつながりがこれまで20年近く活動を続けてこられた秘訣ではないかとも思っています」。



事務局長 小坂 育子さん

※ホタルダス：琵琶湖周辺で、ホタルを通して身近な河川や水環境の現状を把握することを目的に、地域の人がホタルの観察を記録を集める調査。
※水環境カルテ：水道が入る前の水の使い方、直接現場に向いて聞き取り調査を行い、今の私たちが水の使い方と比較するもの。

今後の課題

実験では、リンや硝酸性窒素の除去に最適な水量と吸着材量の関係、吸着材の耐久性を調べるとともに、使用した吸着材の植物への利用方法の確立を目指します。また、農薬類の除去の可能性についても調査を進め、実用化への道を開きたいと考えています。

BYスタンプラリーとは、協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、事務局に送付していただく、素敵な景品を差し上げたいというものです。これまで1,745人の方がご応募くださいました。また協賛グループは、55の市民団体と20の水関連施設で構成されています。(平成19年8月末現在)

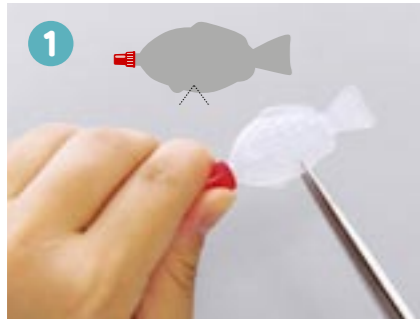
めざせ! 水アーティスト 浮沈子を作ろう!

魚は体内の浮き袋という器官を大きくしたり小さくしたりすることで、体に受ける浮力を調節し水の中を自由自在に泳ぐことができます。
この浮き袋の原理を用いた「浮沈子」を作ってみよう!



用意するもの

しょうゆ入れ、画びょう、ペットボトル(炭酸飲料用の丸い形のもの)、コップ、水、はさみ、サインペン
※画びょうやはさみを使うときは大人に手伝ってもらいましょう



1 しょうゆ入れのお腹あたりに、はさみで穴を開ける



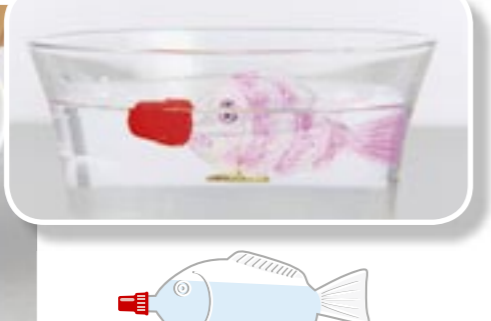
2 穴の前あたりに、おもりにする画びょうを刺します



3 サインペンで好きな色をつけます



4 水を入れたコップを用意し、指でつまみながらしょうゆ入れの中に水を入れます



5 水を入れる目安



6 たっぷり水を入れたペットボトルにしょうゆ入れを入れ、キャップを固く閉めます



7 両手で強くペットボトルを押すと、浮かんでいたしょうゆ入れがゆっくと沈み始めます



8 力を抜くとしょうゆ入れが浮かび上がります

今回のふしきワード

浮力 浮力は紀元前200年ごろ、ギリシャのアルキメデスという人により発見されたもので、物体を水の中に入れたときに、物体にはたらく上向きの力のことをいいます。今回作った浮沈子はこの浮力の作用で浮いたり沈んだりします。ペットボトルを握ると、押された水がほんの少しですがしょうゆ入れの中に入っていくため、しょうゆ入れの中の空気の容積が小さくなり、浮力も小さくなるのです。

BYQ INFORMATION

お申し込み・お問い合わせ: (財) 琵琶湖・淀川水質保全機構 TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036 ホームページ <http://www.byq.or.jp/>

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターで行う公募実験が決定しました。

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター (Biyoセンター) では、琵琶湖やダム湖における水環境保全に対する様々な課題の解決に資する水質浄化技術について共同実験を募集しています。

平成19年度は以下の研究・実験を対象に募集を行いました。

- 河川、湖沼等の公共水域への面源負荷削減対策のための水質浄化技術の研究開発
- 悪化した閉鎖性水域の水質・底質改善のための研究開発
- 湖沼等の公共水域における水質・水環境メカニズム解明のための研究
- 既往の水質浄化技術の実フィールドへの適用性評価のための実験
- 河川や湖沼等から発生する廃棄物等の有効活用に関する研究開発
- その他河川や湖沼等の水質・底質及び生物の生息環境の改善に寄与する技術の研究開発

応募実験について、書類審査およびヒアリングを実施し、当センターの運営検討会において5件の実験を採択することが決定しました。今後、得られた実験結果をもとに、琵琶湖・淀川水系の水環境改善の利用検討を行ってまいります。

<平成19年度新規共同実験>

実験者	実験題名
同和工営株式会社	低濃度リン除去材と機能性木炭(硝酸性窒素除去材)を用いた水質浄化実験
近畿大学薬学部 川崎直人	富栄養化防止のための新規アルミニウム系化合物によるリン酸イオンの回収
滋賀県立大学環境科学部 環境生態学科 浜端悦治	浅水湖沼における沈水植物群落の水質浄化機能の評価に関する研究
ほてじゃこトラスト	タナゴ類の増殖実験
株式会社ニュージェック	珪藻の増殖を目的とした湖沼・河川におけるケイ酸濃度制御方法に関する実験

助成対象事業が決定しました。

(財) 琵琶湖・淀川水質保全機構では、琵琶湖・淀川の水質保全に関わる活動に対し、助成事業を行っています。

平成19年度の助成対象事業が下記の事業に決まりました。

I 琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業(採用1件)

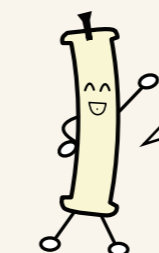
- ・水質浄化と水生生物(主に源氏ホタル)の生態保全と拡大
白川源流と疏水を美しくする会

II 琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動(採用4件)

- ・「今後の琵琶湖・淀川の水質保全のあり方」の政策提言策定
琵琶湖・淀川研究会
- ・丸太利用のイカダとカヌーによる湖の観察
NPO法人NALC(ナルク)びわこ湖西ピオトープくらぶ
- ・琵琶湖・瀬田川の環境保全と改善
NPO法人瀬田川リパブレ隊
- ・ほてじゃこトラストの川遊びトレーニング
ほてじゃこトラスト

身近な川を自分で調べてみませんか?

わくわくWAQU²調査隊 隊員大募集中!



WAQU²調査隊とは?

- 身近な川への関心が薄れてきている中、昔のように川と親しむきっかけをつくることで、水環境を考え直す時間づくりを目指して、平成16年(2004年)から活動を始めています。
- 調査隊員になると、身近な川の汚れ(水質)を簡単なキットを使って調べることができます。
- 調査活動は、1年間で4回程度を予定しています。
- WAQU²調査隊に参加すると、水質マップを進呈します。

応募方法

- 応募資格: 琵琶湖・淀川流域に住み、水環境に興味がある方
- 応募期間: 随時募集中
- 応募方法: 応募用紙はBYQホームページ (<http://www.byq.or.jp/>) からダウンロードできます。ホームページをご覧いただけない方は、お問合せ下さい。
- お問合せ先: (財) 琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部

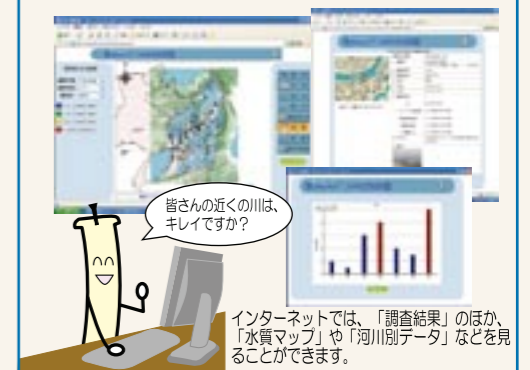
WAQU²調査隊状況(2007年8月現在)

隊員人数 **225**人
調査地点 **309**地点
もっとたくさんの隊員をお待ちしています!!



お知らせ 調査結果をインターネットで見ることができるようになりました。

BYQのTOP画面 (<http://www.byq.or.jp/>) の「WAQU²調査隊」のバナーをクリックし左端にある「閲覧」ボタンをクリックして下さい。



インターネットでは、「調査結果」のほか、「水質マップ」や「河川別データ」などを閲覧することができます。